

「形原古城の辻」
(形原町北古城)

東側に海がある形原では、変形したように見える大島と竹島を並んで見ることができます。そして今回の辻に描いた形原古城は形原の南端にあります。



現在の景色

古代から形原の中心は、袋川の中流にありました。袋川河口にあった音羽港から古城港へは、利生院の崖下の浜道が通じていたようです。中世の末、ここに松平氏が城を築きましたが、短期で廃城となりました。そして、江戸時代には領主が何度も替わったため、代官による支配地となりました。

明治初めになると古城港の整備が進められ、漁業・海運の発展を促しました。そして1926年(大正15年)には、三浦万太郎が利生院の崖下の干拓造成を発案し、5年後に完成させました(三浦町と命名)。これが結果的に国の産業振興策にのった工業団地造成となり、ここを基点にして漁具の綱、ロープなどの産業が創設されました。

1945年(昭和20年)、三河地震による海岸の隆起のため古城港の修復が行われ、ついで古城北海岸を三浦町へつなぐ干拓も行われました。その結果、今の複雑な交差点になりました。

この絵は、この辻から北の三浦町を見ても、西の幡豆へ向かう上り坂を見ても面白いのですが、このような歴史を盛り込むため、南に向かって形原古城を入れて描きました。



樹木医・技術士(建設部門・環境部門) 原野 幹 義

「猿も木から落ちる・だから サルスベリ」

木や花の名前を覚えるのはなかなか難しいものです。大学の圃場ではじめに覚えた木はライラック(お年を召した方にはリラの方がなじみがあるでしょう)。和名はムラサキハシドイ。ごろ合わせで「紫はシンドイ」と覚えました。また、木の種類に関わらず、その地方には珍しい大木を総称して「ナンジャモンジャ」と呼びます。中でも、木曽川流域と対馬に自生し、五月に雪が積もったように白花が咲く、ヒトツバタゴが有名です。これら複雑な名前に比べ、幹肌がつつるして、まさに猿も木から滑り落ちるからサルスベリ、なんと園芸学部の学生に優しい木でしょう。

サルスベリは、『百日紅』と書くように、花の少ない夏場に、長い間花を咲き続けてくれる貴重な木です。花びらはフリル状でゴージャスな雰囲気漂っています。よく見ると花びらの根元は細長い管になっていて向こう側が透けて見える不思議な形をしています。そのため厚ぼったさが消えて軽やかささえあります。花色は赤、ピンク、紫などありますが、暑い夏場では暖色系は暑苦しさを覚えるので、涼しげな白花を見つけるとほっとします。春先の芽吹きは他の木に比べかなり遅く、枯れてしまったかなと心配になりますが、中国南方から渡来し、日本の寒の戻りを避けるための知恵かな?と密かに思っています。

目次 Contents

| | |
|---------------------|-------|
| 指定管理者を募集します | 3 |
| 平成19年度財政状況 | 4-5 |
| 蒲郡まつり | 6-7 |
| 健康がまごおり21「はじめよう運動」 | 8 |
| きれいな三河湾をみんなの手で・犬を飼う | 9 |
| MYスクール・図書館だより | 10 |
| まちの達人・読む水族館 | 11 |
| 遊びにおいでよ児童館へ | 12 |
| 健康カレンダー | 13 |
| 市民相談 | 14 |
| いちおし逸品 | 15 |
| お知らせ | 16-29 |
| クイズまちがいさがし・編集後記 | 30 |
| ふれあい宅配便 | 31 |
| SG第13回オーシャンカップ | 32 |
| こどもミュージアム | 32 |

